

平成 31 年度「SDGs 推進人材育成事業」 実施報告書

主題「別子銅山の近代化産業遺産等の活用を目指したまちづくり人材育成」

愛媛県立新居浜南高等学校

1 目指すゴール

①貧困をなくそう④質の高い教育をみんなに⑩住み続けられるまちづくりを⑮陸の豊かさを
知ろう⑯平和と公正をすべての人に⑰パートナーシップで目標を達成しよう

2 主題設定の理由

工都新居浜の礎となる別子銅山の近代化産業遺産の活用を核とし、地域課題の解決に向けて
地域と連携した活動を行うことで、まちづくりについて考えさせ、SDGs における意識や態度
を身に付けさせるとともに、持続的発展可能な社会に向けてのリーダーを育成することを目的
とし、本主題を設定した。

3 事業計画

主な事業について項目を示す。

月	日	内 容	実施学年、参加生徒数及び 教育活動における位置付け等	目指す ゴール
4	18	マイントピア別子遠足事前学習 108 名 講師:ユネスコ部員 4 名	1 年次 108 名・部活動 4 名	④
	19	マイントピア別子への遠足 [協力:住友金属鉱山別子事業所]	1 年次 108 名	④
	23	ESD 中高連携事業「別子銅山を学ぼう!」【事例 4】 in 船木中学校 1 年生 45 名 ※以下、「ESD 中高連携事業」と表記	地域共創系列 3 名	④
	25	ESD 中高連携事業 in 北中学校 1 年生 62 名 【事例 4】	地域共創系列 3 名	④
	26	ライフスタディ I「別子銅山近代化産業遺産フィールドワークⅡ ～山根エリア～」事前学習会	2 年次 108 名・部活動 2 名	④
	26	新居浜子ども食堂中村松木店 【事例 2】	ボランティア生徒 11 名	①
	27	「ここにしか咲かない花 銅山峰のツガザクラ展」 (あかがねミュージアム)	地域共創系列・部活動 7 名	⑮
	28	第 1 回別子銅山「遠登志～東平」現地研修会	地域共創系列・部活動 9 名	④
5	2	第 2 回遠登志～東平現地研修会	地域共創系列・部活動 11 名	④
	17	ESD 中高連携事業 in 角野中学校 3 年生 114 名 【事例 4】	部活動 6 名	④
	24	ESD 中高連携事業 登山学習船木中学校 1 年生 45 名 【事例 4】	部活動 6 名	④
	25	銅山峰のツガザクラ群の春季保護活動 憧山会 6 名 卒業生 4 名 【事例 12】	ボランティア生徒 13 名	⑮
	26	四国まちづくりオフサイトミーティング 2019 (松山) 【事例 6】	部活動 6 名	⑩
	30	産業社会と人間「新居浜の歴史と地方創生」 新居浜の歴史講師:ユネスコ部、地方創生講師:新居浜市職員	1 年次 108 名・部活動 6 名	⑩
31	新居浜子ども食堂中村松木店 【事例 4】	ボランティア生徒 12 名	①	
6	11	新居浜子ども食堂中村松木店へのヒアリング調査 【事例 2】	課題研究 3 年次 1 名	①
	14	新居浜子ども食堂中村松木店 【事例 2】	ボランティア生徒 14 名	①
	16	ESD 中高連携事業 in 東中学校 1 年生 129 名 【事例 4】	地域共創系列 9 名	④

月	日	内 容	実施学年、参加生徒数及び 教育活動における位置付け等	目指す ゴール
7	13	第13回新居浜ユネスコ寄席～つなげよう平和の心～ (新居浜市市民文化センター) ※以下、「市民文化センター」と表記	ボランティア・部活動 5名	⑯
	19	新居浜子ども食堂中村松木店 【事例2】	ボランティア生徒 6名	①
	23	『瀬戸内工進曲』ルーツを訪ねて～東平編～ 【事例13】	部活動 3名	⑮
	25	オールラウンドストーリー『銅山人の詩～四阪島のくらし～』伊川忍氏、杉野緑氏	部活動 4名	④
8	3	「にいほま学Ⅱ」別子銅山登山研修～旧別子地区～ 【事例5】	地域共創系列 7名	④
	10	「第10回 平和の鐘を鳴らそう」新居浜ユネスコ協会	部活動 2名	⑯
	12	「瀬戸内工進曲のルーツ～別子銅山を学ぼう!～」Jin 坊っちゃん劇場 【事例13】	地域共創系列・部活動 6名	⑮
	20	足尾銅山現地研修事前準備	地域共創系列 5名	④
	23	新居浜子ども食堂中村松木店 【事例2】	ボランティア生徒 20名	①
	22	新居浜市高齢者生きがい創造学園出前授業 受講者 30名	部活動 4名	④
	28	足尾銅山現地研修(日光東照宮)	地域共創系列 5名	⑪
	29	足尾銅山現地研修(足尾銅山) 【事例12】		⑮
30	足尾銅山現地研修(足尾銅山) 【事例12】		⑮	
31	足尾銅山現地研修(富岡製糸場)		⑪	
9	20	世界共通のゴール「SDGs」の達成を目指したESD講演 講師:愛媛大学国際連携推進機構准教授 小林修氏 【事例1】	2年次 105名	④
	20	新居浜子ども食堂中村松木店 【事例2】	ボランティア生徒 9名	①
	22	にいほま SDGs アート・フェスティバル 2019 見学(あかがねミュージアム)	部活動 3名	④
	28	2019 四国ブロック・ユネスコ活動研究会 実践発表(市内ホテル)	部活動 4名	⑯
	29	上記研究会のエクスカージョンによる市内観光ガイド ESD 実践研究発表によりESD奨励賞表彰[新居浜市教育委員会]	部活動 4名	④
	30	ミャンマー識字リソースセンター ミヤット・ナイン氏、リン・ミント氏 日本ユネスコ協会連盟 宋戸亮子氏 新居浜ユネスコ協会 吉田達哉氏 学校長表敬訪問 【事例15】		⑯
10	4	第64回ESD中高連携事業 in 泉川中学校 1年生 86名 【事例4】	地域共創系列 7名	④
	11	第65回ESD中高連携事業 in 川東中学校 1年生 168名 【事例4】	地域共創系列 7名	④
	23	新居浜市「学生まちづくりワークショップ」開催(市役所庁舎)	地域共創系列・部活動 3名	⑪
	25	新居浜子ども食堂中村松木店 【事例2】	ボランティア生徒 9名	①
	26	銅山峰のツガザクラ群の秋季保護活動 憧山会 7名	ボランティア生徒 4名	⑮
	27	2019「えひめ教育の日」推進大会・推進フェスティバル(市民文化センター)	部活動 4名	④
	30	にいほま学「共生の地域づくりを目指して」講演 新居浜市国際交流協会事務局長 土井美智子氏	地域共創系列 16名	⑪
31	あいテレビ Nスタえひめ「瀬戸内工進曲」特集でユネスコ部出演 【事例13】	部活動 4名	⑮	
11	13	「議会フォーラム 2019」への参加 (あかがねミュージアム)【事例7】	部活動 4名	⑪
	15	新居浜子ども食堂中村松木店 【事例2】	ボランティア生徒 17名	①
12	7	高校生まちづくり観光ツアー企画 参加者 8名 【事例8】	地域共創系列 7名	⑪
	14	「新居浜を味わおう!～高校生と巡る新居浜今昔物語～」開催 日本遺産「播但貫く、銀の馬車道・鉱石の道」高校生フォーラム (兵庫県神崎郡神河町グリンデルホール) 来場者約400名【事例9】	部活動 4名	⑪

月	日	内 容	実施学年、参加生徒数及び教育活動における位置付け等	目指すゴール
12	15	兵庫県立生野高等学校まちづくり部との現地交流学习 (生野銀山遺跡、竹田城跡他) 生野高校生徒 4 名	部活動 4 名	④
	20	新居浜子ども食堂中村松木店 クリスマス会【事例 2】	ボランティア生徒 31 名	①
	23	高校生とっしょに別子銅山を探検しよう！ in 角野【事例 3】 角野小学校 6 年生 118 名	地域共創系列 6 名 ボランティア 14 名	④
	24	オールラヒストリー『銅山人の詩～東平のくらし～』 野住藤一郎氏、谷脇靖夫氏、伊藤浩氏、大野和美氏、 岩田規詮氏、伊藤孝氏	部活動 4 名	④
	26	オールラヒストリー『銅山人の詩～四阪島のくらし～』十河正行氏	部員 4 名	④
1	6	大鉾の唄奉唱取材	部活動 4 名	④
	17	新居浜子ども食堂中村松木店【事例 2】	ボランティア生徒 7 名	①
	21	にはま学「地域創生とは何事かー地域学習に向けて」講演 鳴門教育大学名誉教授 近森憲助氏【事例 10】	地域共創系列 14 名	⑪
	23	ライフスタディⅡ(課題研究)等学習成果発表会 (新居浜市民文化センター大ホール) 一般参加者約 70 名	全校生徒 330 名	④
	28	令和元年度「スーパーハイスクールコンソーシアム in 東予」 (西条市総合文化会館)	1 年次 108 名 2 年次 2 名、3 年次 9 名	④
2	9	第 30 回新居浜グローバルパーティー 参加者(ウイメンズプラザ) 15 か国 79 名 日本人 261 名 計 340 名	地域共創系列・部活動 6 名	⑩
	11	第 2 回高校生による歴史文化 PR グランプリ (四国中央市ユウホール)	地域共創系列 7 名	④
	19	角野小学校 6 年生と銅の折り鶴づくり教室 ～平和を願い感銅の絆を結ぼう～ 児童 118 名	地域共創系列 7 名	⑩

4 実施内容

実施した事業の中で、主とした目指すゴール別に特筆する内容について報告する。

(1) ESD・SDGs テーマ全体としての取組【事例 1】

ESD や SDGs への理解と関心を高めるため、総合の時間を利用して『「世界共通のゴール「SDGs」の達成を目指した ESD』と題して、愛媛大学国際連携推進機構准教授の小林修氏を招いて 2 年次生 105 名を対象に講演を行った。本時の学びは 3 年次の課題研究へつなぐ。



写真 1 愛媛大学国際連携推進機構准教授
小林修氏



写真 2 講演の様子

(2) 『①貧困をなくそう』 への取組【事例 2】

経済的に困難な子どもらに食事を提供する子ども食堂へのボランティア活動に取り組んだ。新居浜子ども食堂中村松木店は月に 1 回開店する。その子ども食堂へ 4 月～1 月にかけて計 10 回ボランティアへ参加した生徒はのべ 136 名となった。(昨年度 79 名)

特に 3 年次生の課題研究として 1 名の生徒が取り組んだ。主催者へのヒアリング調査をはじめ、毎月の参加、さらには高校生によるクリスマス会の企画運営の中心となるなど、積極的に取り組んだ。その実践は「ライフスタディⅡ (課題研究)」等学習成果発表会で報告した。



写真 3 主催者へのヒアリング調査の様子



写真 4 クリスマス会の様子

(3) 『④質の高い教育をみんなに』 への取組

ア 小学校への出前授業【事例 3】

地域共創系列 2 年次生 6 名が小学生 108 名とともにフィールドワークを行った。

角野公民館主催の新居浜市立角野小学校 6 年生のふるさと学習において、「高校生といっしょに別子銅山を探検しよう！」と銘打って、学校周辺の別子銅山の近代化産業遺産を巡った。また、道中の安全見守りボランティアとして 14 名の高校生が参加し、地域住民も多数参加した。



写真 5 クラスで記念写真



写真 6 出発前に SDGs を説明する様子



写真 7 水処理施設で SDGs を確認する様子



写真 8 機関車前で SDGs を確認する様子

イ 中学校への出前授業【事例 4】

地域共創系列選択生徒が中心となり、中学校でふるさと学習として実施している別子銅山登山学習における事前学習での出前講座や実際の登山学習のガイドを行った。のべ7校649名と学びを共にした。



写真 9 中学校での出前授業の様子



写真 10 別子銅山の製品サンプルを回覧する様子



写真 11 登山ルートについて確認する様子



写真 12 山の自然環境について説明する様子

ウ 別子銅山現地研修の取組【事例 5】

地域共創系列3年次生7名が別子銅山発祥の地である旧別子地区へ現地研修を行った。山中の近代化産業遺産を巡りながら、先人のSDGsに匹敵する取組について体験的に学びを深めた。



写真 13 産業遺産の前にSDGsを確認する様子



写真 14 別子銅山登頂記念写真

(4) 『⑩住み続けられるまちづくりを』への取組

ア 四国まちづくりオフサイトミーティング2019への参加【事例 6】

ユネスコ部員6名が、松山市で開催されたミーティングに参加し、別子銅山の近代化産業遺産を活かしたまちづくり学習の活動報告を行った。

県下から14校、約120名が参加した。各校の生徒たちが、地域の特徴を生かしたまちづくりの実践について熱い想いを語り合った。

イ 新居浜市議会フォーラムへの参加【事例 7】

ユネスコ部員 4 名と卒業生 1 名がフォーラムへ参加し、パネリストとして登壇した。

「持続可能 (SDGs) な公園運営の在り方について」をテーマに、滝宮公園のリニューアルから市民にとっての公園について意見交換を行い、一人一人が自身の意見をしっかりと述べた。



写真 15 四国まちづくりオフサイトミーティング

ウ 観光ツアー企画・実践の取組【事例 8】

地域共創系列 3 年次生 7 名が、「にいはま学Ⅱ」におけるこれまでの学びの集大成として、観光まちづくりツアープランを実践した。

今年度、愛媛県・四国中央市・新居浜市・西条市が連携して取り組んだ東予東部圏域振興イベント「えひめさんさん物語」に参画し、連携プログラムの一つ「歴史の語り部とめぐる あかがねの街ガイドツアー」において、高校生企画「新居浜を味わおう！～高校生と巡る新居浜今昔物語～」を新居浜市観光ガイド普及事業部会と連携して、高校生自らが企画から運営まで行い、参加者 8 名を集客して開催することができた。



写真 16 新居浜市議会フォーラムの様子



写真 17 企画案作成の様子
(本校での市職員による出前講座にて)



写真 18 企画のプレゼンテーションの様子
(新居浜市観光協会にて)



写真 19 ガイドツアー実践の様子①
(国重要文化財旧広瀬邸にて)



写真 20 ガイドツアー実践の様子②
(カフェでの歓談&昼食)

※ツアーの内容：別子銅山の近代化産業遺産と町のカフェをコラボレーションした企画

エ 日本遺産「播但貫く、銀の馬車道・鉱石の道」高校生フォーラムへ参加【事例 9】

日本遺産として認定されたストーリーを将来を担う人材である高校生を中心に、若者の中での知名度や愛着を高めるとともに、将来的に地域を担う人材を育成すること、またこのフォーラムを通じて銀の馬車道・鉱石の道の沿線市町の高校生のネットワーク化を図り、地域活動の活性化を目的に開催され、6つの高校から29名の高校生が参加した。

本校からはユネスコ部員4名が参加し、別子銅山の近代化産業遺産を活かしたまち学習・まちづくり学習について発表し、パネルディスカッションにも参加した。



写真 21 参加した高校生たちと記念写真



写真 22 ステージでの発表の様子

オ 地域創生をテーマにした取組【事例 10】

鳴門教育大学名誉教授・高知学園短期大学参与・四国地方 ESD センター長の近森憲助氏に「地域創生とは何事かー地域学習に向けて」と題して講演を行っていただき、にいはま学 I および II の合同で14名が聴講し、講演後、意見交換を行った。



写真 23 近森憲助氏



写真 24 生徒との意見交換の様子

(5) 『⑩陸の豊かさを知ろう』への取組

ア 銅山峰のツガザクラ群落の保護活動【事例 11】

昨年2月に国天然記念物指定となったツガザクラの保護活動を春と秋の2回行った。

春は生徒会、地域共創系列、部活動等の有志13名、さらには卒業生4名が新居浜の登山愛好家「懂山会」と連携して実施した。

標高750メートルの登山口から標高1,300メートルの銅山峰まで、登山道に生息・生育する動植物などの自然観察を懂山会にご指導いただきながら登山した。そして現場ではそれぞれが役割を分担し、懂山会の指導の下で保護策の点検や定点観測などにあたった。

また、秋にも同様な保護活動を行った。

この活動に際して、3月に新居浜市が市民向けフォーラムを開催する予定であったが、新型コロナウイルスの影響で中止（無期限延期）となった。



写真 25 銅山峰のツガザクラ



写真 26 春の保護活動参加者



写真 27 保護柵のくい打ち作業の様子（秋）



写真 28 定点観測の様子（秋）

イ 足尾銅山現地研修【事例 12】

地域共創系列 5 名が、「日本の公害の原点」とされる栃木県足尾銅山を訪れ、国土交通省 渡良瀬川河川事務所および NPO 法人足尾に緑を育てる会と連携して体験植樹も実施した。



写真 29 国土交通省職員より説明を受けている様子



写真 30 旧松木村の現状



写真 31 NPO 法人関係者からの聞き取り調査の様子



写真 32 植樹体験の様子

煙害によって廃村となった旧松木村の現状を視察し、植樹体験を通して環境改善の取組の必要性や困難さを肌で感じるとともに、環境保全の重要性に理解を深めた。

ウ 坊ちゃん劇場と連携した取組【事例 13】

今年度、坊ちゃん劇場で上演されたミュージカル「瀬戸内工進曲」は、別子銅山の煙害問題をテーマとしている。

地域共創系列やユネスコ部の生徒らがミュージカルの出演者と別子銅山の東平地区で現地研修会を行った。さらには、劇場の舞台上で別子銅山の煙害克服の歴史を紹介したプレゼンテーションを観客に行った。

後日、あいテレビのニュース番組内でミュージカル「瀬戸内工進曲」が特集され、ユネスコ部員が番組に出演した。



写真 33 別子銅山の全体像を説明する様子



写真 34 植林事業について説明する様子



写真 35 坊ちゃん劇場の舞台上で発表する様子



写真 35 テレビ取材の様子

(6) 『⑩平和と公正をすべての人に』への取組

ア 四国ブロック・ユネスコ活動研究会での発表【事例 14】

日本ユネスコ協会連盟および新居浜ユネスコ協会が主催して新居浜市内で開催された。

その研究会で、2名の生徒が日本ユネスコ連盟主催の海外派遣プログラム「第9回ESD国際交流プログラム」(ドイツ・フランス派遣)と「第6回高校生カンボジアスタディツアー」に参加した報告を行い、新居浜市教育委員会等よりESD奨励賞の表彰を受けた。



写真 36 四国ブロック・ユネスコ活動研究会で生徒が発表する様子

イ ミャンマー識字リソースセンター職員による学校長表敬訪問【事例 15】

四国ブロック・ユネスコ活動研究会参加のために来日しているミャンマー識字リソースセンター職員のミヤット・ナイン氏、リン・ミント氏をはじめとして、日本ユネスコ協会連盟の宍戸亮子氏、新居浜ユネスコ協会会長の吉田達哉氏が、本校のユネスコ活動を評価して山本公治校長を表敬訪問した。

校長室にて、ミャンマーの寺子屋プロジェクトについて、現状や成果、今後の活動内容などについてお話をいただいた。



写真 37 表敬訪問の様子

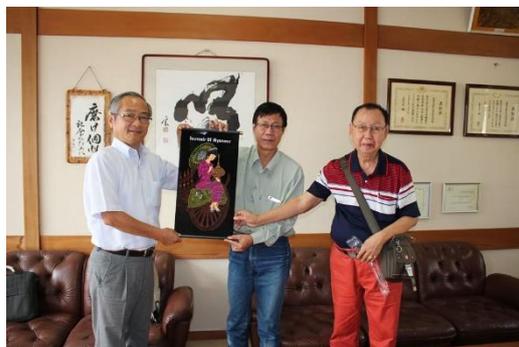


写真 38 訪問記念品贈呈の様子

中央：リン・ミント氏 右：ミヤット・ナイン氏

(7) 『⑰パートナーシップで目標を達成しよう』への取組

以上の取組を実践する中で連携を行った関係機関等は 50 を超えた。

ESD、SDGs を核にすることで、パートナーシップを容易に形成することができた。

また実践してみると、SDGs の 17 の目標が独立して存在するのではなく、一つの実践の中にも濃度の差はあれ、それぞれが関連していることも実感する。お互いの目標を行き来しながら、様々な機関とパートナーシップを形成できた。

5 成果と今後の課題

(1) 学校の変容

学校と地域との連携の裾野が広がるとともに、その内容も一段と深まりを増した。教育課程の中に ESD を推進し、SDGs を目指したカリキュラムが実践されるようになった。

(2) 教職員の変容

学校と地域が連携することで、生徒たちがゴールに向かって変容して行く姿を目の当たりにし、教職員のモチベーションが上がり、実践への意識の高まりが見られた。

(3) 生徒の変容

地域に対する関心が高まるとともに、視野が広がり、シビックプライドが醸成された。そのことがボランティア活動をはじめとする地域の様々なイベントへの積極的参加につながり、生徒の学力（主体性、協働性、探求性、社会性など）＝「生き抜く力」の向上が図られるとともに、SDGs を推進する人材としての資質や基礎的な能力を育成できた。

(4) 地域の変容

学校と地域との信頼関係が深まり、地域から頼られる学校として評価が高まった。本校はユネスコスクールとして ESD 推進役の大きな使命を持っている。本校の教育活動を SDGs と結びつけることで、さらに取組の方向性を明確にして活動内容の深化を図りたい。

別子銅山の近代化産業遺産を ESD・SDGs の教育資源として活用し、校内外における『学びの絆サイクルの輪』を循環させる仕組みづくりを課題として、その実現に向けて今後取り組んでいく。